

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL. 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	4971
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.mec-co.com/ir/denshi/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記の特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ニュースメール配信サービスのご案内

当社では、ホームページにニュースリリースや新しいコンテンツが掲載された際に、ご登録者のみなさまにそのタイトルとURLを電子メールにてお知らせするサービス(ニュースメール配信サービス)を行っています。ご希望の株主さまには、サービスを利用するための送信先メールアドレス(携帯電話のメールアドレス不可)を、当社ホームページまたは、ディア・ネットサービスシステム(<http://www.dirnet.jp/>)から、簡単にご登録いただけます(無料)。

アンケートのお願い

当社では、株主のみなさまとのよりよいコミュニケーションを目指し、今後も業績情報の開示の充実に努めてまいりたいと考えております。つきましては、この株主通信に対するご意見、ご感想をお聞かせいただきたくアンケートにご協力をお願いいたします。同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函くださいますようお願いいたします。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



メック株式会社

証券コード：4971



メック株式会社

本社事務所 / 〒660-0881
兵庫県尼崎市昭和通三丁目95番地 アマックスビル
TEL. 06-6414-3451(代) FAX. 06-6414-3455

URL <http://www.mec-co.com/>



第41期 第2四半期 株主通信

2009年4月1日から2009年9月30日まで

P1 — メックの製品が活躍する市場
市場回復を見すえ、
有力新製品の拡販を図ります。

P2 — 株主・投資家のみなさまへ

P5 — 財務ハイライト

P6 — 連結財務照表

P9 — 会社概要

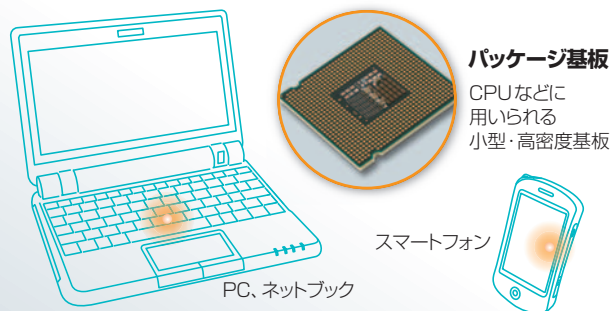
P10 — 株式の状況



市場回復を見すえ、有力新製品の拡販を図ります。

エレクトロニクス業界は、昨秋以来の経済不況を本格的に脱するのに先立って、成長市場を中心に再拡大に備えた積極投資の動きが活発化しています。メックも市場回復後を見すえた開発・販売戦略を着々と進めています。

厚みと広がりを増してきた モバイル端末市場



手頃な価格で、なおかつ以前にましてハードウェア性能も向上したネットブック市場が急成長を続ける一方、新OSのリリースやブルーレイ(Blu-ray)搭載など新機構を採用したPCへの買い換え需要増が見込まれています。いずれも当社主力製品「メックエッチボンドCZ」シリーズの拡販が期待される分野。一方では汎用OSを搭載し、パソコンなみの高機能を備えたスマートフォンの市場拡大が進み、加えて機能的にはスマートフォンとネットブックの中間に位置するタッチパネル搭載のタブレットPC市場も拡大する見込み。ますます厚みを増すモバイル端末市場で当社「Vボンド」の拡販を目指します。

景気低迷による販売不振が続いた自動車市場でしたが、環境規制の強化でガソリン車の低燃費化やハイブリッドカー(HV)、電気自動車(EV)の市場投入が相次ぎ、回路部品の需要が拡大します。ESC(横滑り防止装置)などの安全規制でも車一台あたりの半導体式センサの数量も増加し、当社の「Vボンド」や「CZシリーズ」の活躍の場がさらに広がっています。

薄型テレビ市場も、地上波デジタル放送切り替えによる国内の買い換え需要が本格化する一方、中国市場でも家電購入に対する支援策実施で順調に推移。これらの市場で当社「Vボンド」シリーズの採用がますます進んでいます。

新世代自動車と薄型テレビの 市場拡大で需要増に



第41期第2四半期の業績および 今後の事業方針についてご報告申し上げます。

Q 当期概況と決算における数値について

電子基板向け薬品の新製品を発売し、物流や製品原材料のコスト低減に注力しましたが、前年同期水準への本格回復は見られず減収減益となりました。

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、各国政府による需要喚起策が功を奏して、中国を始めとする新興工業国では消費拡大の動きも見られるなど、ようやく景気底打ちの兆しを示しつつある一方、日本国内は円高や雇用不安、デフレ懸念を背景に、依然として民間設備投資、個人消費ともに低調に推移し、総じて本格的な景気回復には至っておりません。

電子部品業界においては、パソコンや薄型テレビ等のデジタル家電が回復基調に入ったものの、自動車関連や携帯電話等厳しい分野もあり、予断を許さない状況が続いている中で、電子基板業界においては、第1四半期連結会計期間末までに在庫調整は一巡したものの、前年同期並みの水準への本格回復は見られませんでした。

代表取締役社長
前田 和夫

第2四半期累計実績および期末業績予想 (単位:百万円)

	平成21年3月期	平成22年3月期 第2四半期	平成22年3月期 予想
連結 売上高	6,954	2,741	6,066
営業利益	878	260	671
経常利益	733	261	656
当期純利益	287	229	341
単体 売上高	4,673	2,110	4,529
営業利益	△121	△23	35
経常利益	△8	△47	337
当期純利益	11	△23	219

※ 本報告書に記載した予想値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実績の業績変化等により、予想と異なる場合があります。

このような経済環境のもと、当社グループは、顧客における生産コスト低減に寄与するとともに、当社収益の拡大につながる新製品の開発を進めました結果、当期間中に4件の特許出願と5件の新製品販売を行いました。また、物流コストおよび製品原材料コストの低減のほか、外部委託業務の見直し、人件費の抑制によるコストダウンにも取り組みました。

しかしながら電子基板生産の本格的な回復には至らず、当第2四半期連結累計期間における売上高は27億41百万円(前年同期比38.4%減)となりました。販売費及び一般管理費はコストダウン強化により14億72百万円(前年同期比15.1%減)となりました。その結果、営業利益は2億60百万円(前年同期比73.8%減)、経常利益は2億61百万円(前年同期比74.7%減)、四半期純利益は2億29百万円(前年同期比70.6%減)となりました。

Q 製品セグメント別の販売動向は?

本格的な生産回復には至らず「薬品」の売上高は減少も、前年同期比約8割まで回復してきました。

当社グループの品目別売上構成比(連結)のうち、「薬品」の売上高は電子基板業界が本格的な生産回復には至らなかったことから25億67百万円(前年同期比35.7%減)となり、売上高全体に

占める割合は93.6%(前年同期比3.9%増)となりました。このうち超粗化剤CZシリーズの売上は14億24百万円(前年同期比30.5%減)で、薬品売上高に占める割合は55.5%(前年同期比4.1%増)となりました。

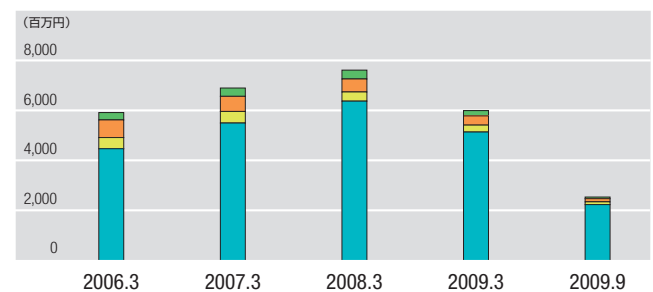
しかし、第1回目の業績修正発表を行った7月31日時点における想定を一定程度上回る水準で市場環境の回復は進んでおり、直近では当社CZシリーズの市場であるパッケージ電子基板市場、とりわけ薄型テレビやスマートフォンが上向き、前年同期比80%程度には回復しています。国内では高い信頼性が求められる汎用多層基板向けに、当社Vボンドの拡販をさらに見込んでいます。

Q 研究開発の成果と方針は?

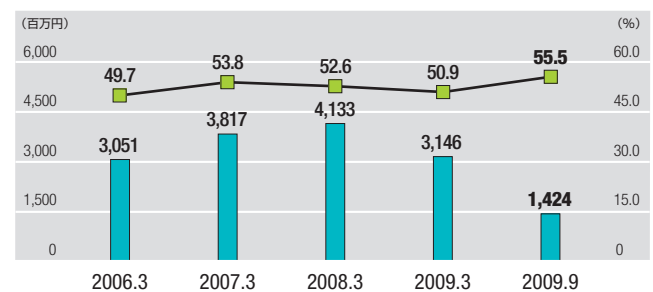
環境対応製品の開発と拡販に取り組み、新市場開拓に向けた次世代製品の開発も進めてまいります。

研究開発につきましては、かねてより重点テーマであった環境対応薬品として、輸送量低減につながる濃縮タイプや、エッチング量を増やしたハイキャパタイプの薬品を開発しました。引き続き、環境対応製品分野で当社の優位性を発揮するため、環境に配慮しつつ低コストも実現する新製品開発に取り組むとともに、従来の製造プロセスを使っておられる顧客に対して、当社環境対応製品

製品セグメント別売上高



薬品売上高に占めるCZシリーズの割合



への切り替えを提案し拡販に努めてまいります。

また、将来的な成長市場としては医療分野に注目しています。一昨年から国内販売が始まったカプセル内視鏡などの小型医療機器、さらには米国で一大国家プロジェクトが計画され、国内でも産学連携により構築が始まっている遠隔医療ネットワークの分野に向けて、当社の最も得意とする最先端プロセスの次世代製品の開発に取り組んでまいります。

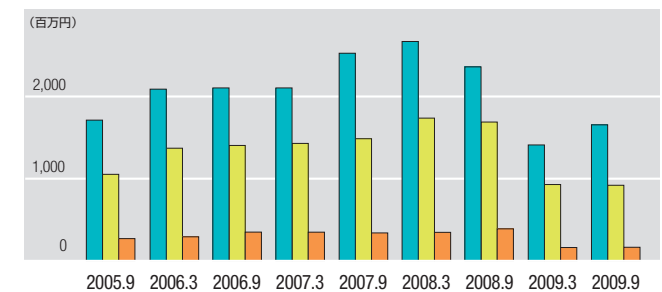
Q 市場動向を踏まえた事業方針は?

EV生産が本格化する自動車市場へ向けたグループ拡販体制の強化と、引き続き中国市場での深耕に注力してまいります。

世界の電子部品市場で大きな伸びが期待できる分野として、電気自動車(EV)市場の動向に注目しています。EV生産が本格化すれば、従来の自動車以上に電子基板が使用され、高密度パッケージ基板の需要も増大します。車載電子機器は耐久性や信頼性が厳しく問われるだけに、当社のVボンドや耐熱水溶性プリフラックスなどの優位性が大いにアピールできる分野です。市場動向の把握に努め、営業・技術・生産各部門の連携を深めて、戦略的にグループ拡販体制の強化を図ってまいります。

このほか電子機器の需要拡大が見込まれる新興工業国、とりわけ

地域セグメント別売上高



実需面でポテンシャルの大きい中国市場を引き続き重視し、日系メーカー以外の顧客開拓にも努めてまいります。

昨秋以来の世界不況の影響が尾を引、厳しい状況が続いていた電子基板業界も、今年春先より緩やかな回復基調になりました。まだ予断は許しませんが、当社薬品の商品力とグローバルネットワークを活かし、得意分野で圧倒的なポジションの獲得をめざすとともに、高性能商品の開発を通じて新分野への足がかりをつくることも目標に置いています。

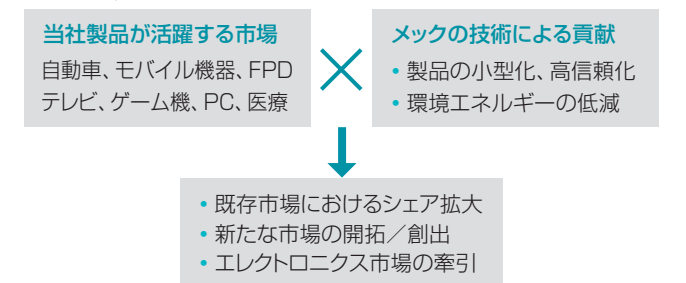
Q 当期・次期の配当政策について

経済環境が依然厳しく、不透明なことから、当期配当は1株当たり4円とさせていただきます。

配当金につきましては、安定配当の考えを維持しつつ、期間利益の反映を図る所存ですが、当期につきましては当社を取り巻く経済環境が依然厳しく、不透明なことから、1株当たり中間配当金4円、期末配当金4円の年間8円の予想を維持させていただきます。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **前田 和夫**

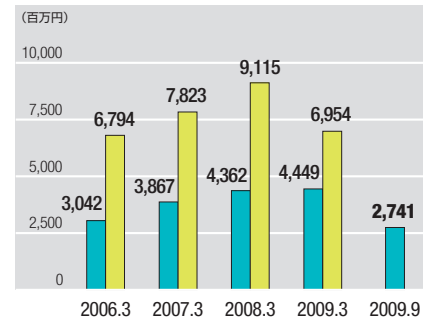
当社を取り巻く環境と今後の方針



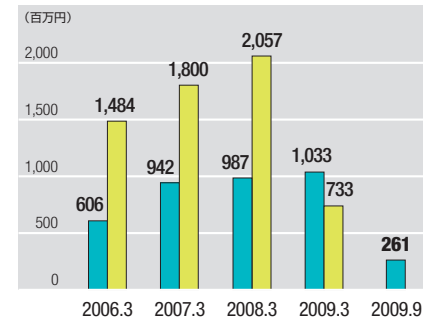
FINANCIAL HIGHLIGHT

財務ハイライト

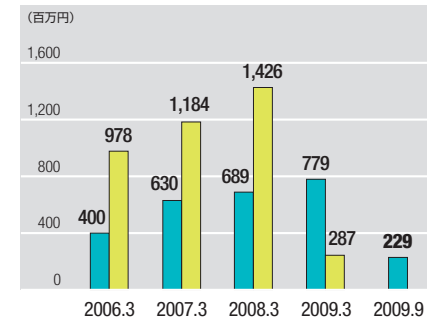
売上高



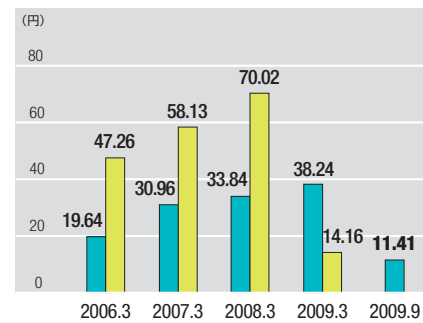
経常利益



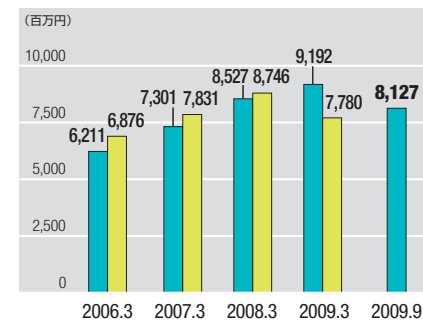
当期純利益



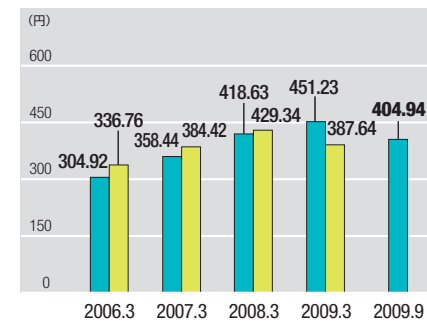
1株当たり当期純利益※



純資産

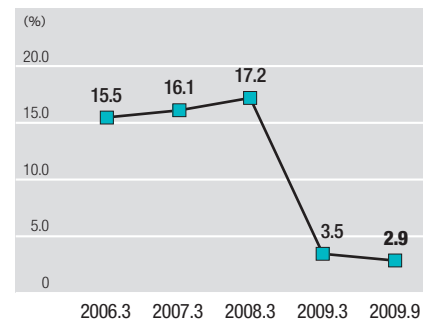


1株当たり純資産※

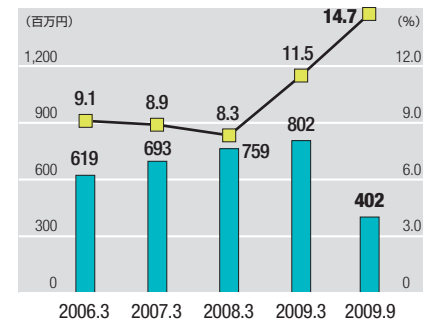


※ 2006年4月1日付で1:2の株式分割を実施しております。上グラフ1株当たり指標については、株式分割がすべて2005年4月1日に実施されたと仮定して遡及修正を行った場合の指標推移を表示しております。

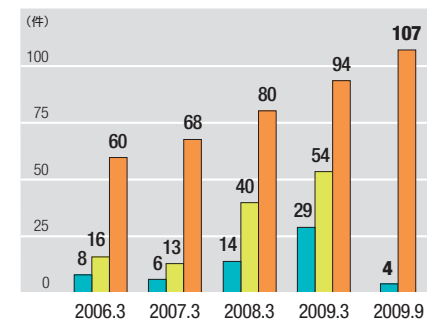
ROE



研究開発費の対売上比率



特許件数の推移



FINANCIAL STATEMENTS

連結財務諸表

連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

	当第2四半期 連結会計期間末 2009年9月30日	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 2009年3月31日
(資産の部)		
流動資産	6,085,062	5,722,846
1 現金及び預金	3,859,235	3,584,544
2 受取手形及び売掛金	1,681,597	1,377,451
3 有価証券	—	50,000
商品及び製品	237,940	231,015
原材料及び貯蔵品	187,985	238,558
繰延税金資産	41,322	38,074
4 未収還付法人税等	35,744	150,349
その他	50,760	64,478
貸倒引当金	△9,524	△11,626
固定資産	4,242,588	4,008,613
有形固定資産	3,562,523	3,415,321
建物及び構築物(純額)	1,366,257	1,389,012
機械装置及び運搬具(純額)	405,493	459,707
工具、器具及び備品(純額)	148,038	150,739
土地	1,192,424	1,167,488
5 建設仮勘定	450,308	248,373
無形固定資産	55,759	61,754
のれん	10,882	14,212
その他	44,877	47,542
投資その他の資産	624,305	531,537
6 投資有価証券	502,949	381,297
7 その他	129,462	178,771
貸倒引当金	△8,106	△28,530
資産合計	10,327,650	9,731,460

(単位:千円)

	当第2四半期 連結会計期間末 2009年9月30日	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 2009年3月31日
(負債の部)		
流動負債	1,604,760	1,404,523
8 支払手形及び買掛金	555,066	392,210
短期借入金	480,000	480,000
9 未払金	188,312	149,240
未払費用	34,977	29,210
未払法人税等	115,986	126,320
賞与引当金	159,038	103,716
役員賞与引当金	8,032	—
10 その他	63,346	123,825
固定負債	595,182	546,534
11 繰延税金負債	458,795	427,002
退職給付引当金	30,380	16,704
その他	106,006	102,827
負債合計	2,199,943	1,951,057
(純資産の部)		
株主資本	8,441,004	8,372,585
資本金	594,142	594,142
資本剰余金	446,358	446,358
12 利益剰余金	7,493,201	7,424,761
13 自己株式	△92,697	△92,677
評価・換算差額等	△313,297	△592,182
その他有価証券評価差額金	75,129	△4,714
為替換算調整勘定	△388,426	△587,468
純資産合計	8,127,707	7,780,402
負債純資産合計	10,327,650	9,731,460

連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期連結累計期間 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
14 売上高	2,741,779	4,449,020
売上原価	1,008,190	1,717,621
15 売上総利益	1,733,589	2,731,398
16 販売費及び一般管理費	1,472,694	1,734,443
17 営業利益	260,894	996,955
営業外収益	41,691	50,477
受取利息	21,149	20,721
受取配当金	5,846	8,158
投資有価証券売却益	1,582	—
為替差益	—	8,798
設備賃貸料	—	6,212
その他	13,112	6,586
営業外費用	41,440	13,664
支払利息	3,171	3,344
有価証券売却損	420	—
投資有価証券評価損	574	—
18 為替差損	31,672	—
設備賃貸費用	—	1,827
その他	5,601	8,492
19 経常利益	261,146	1,033,767
特別利益	27,648	101,356
固定資産売却益	—	447
20 保険解約返戻金	9,479	100,909
貸倒引当金戻入額	1,324	—
21 為替換算調整勘定取崩益	16,845	—
特別損失	2,799	15,437
固定資産売却損	1,023	55
固定資産除却損	1,775	3,275
22 減損損失	—	12,106
税金等調整前四半期純利益	285,995	1,119,686
法人税等	56,985	340,591
23 四半期純利益	229,010	779,094

Point 1 現金及び預金:業績回復による増加。

Point 2 受取手形及び売掛金:前年第4四半期と比べ、売上増による増加。

Point 3 有価証券:売却による減少。

Point 4 未収還付法人税等:還付法人税の入金による減少。

Point 5 建設仮勘定:土地取得中間金の増加(日本)。

Point 6 投資有価証券:株式の時価上昇による増加。

Point 7 その他:主に保険積立金の満期に伴う減少。

Point 8 支払手形及び買掛金:売上増による仕入債務の増加。

Point 9 未払金:主に売上増による運送費の増加と設備関係未払金の増加によるもの。

Point 10 その他:主に「設備関係支払手形」の減少。

Point 11 繰延税金負債:株式の時価上昇による増加。

Point 12 利益剰余金:配当による減少、当期利益による増加。

Point 13 自己株式:端株買取による減少。

Point 14 売上高:前年同期と比べ1,707百万円(38.4%)の減収。薬品売上は2,567百万円となり前年同期より1,422百万円(35.7%)の減少。機械は104百万円の減少。資材は170百万円の減少。

Point 15 売上総利益:売上(薬品売上)の減少により売上総利益額も減少。前年同期と比べ997百万円(36.5%)の減少。売上総利益率の上昇は、全売上に対する薬品売上比率が高かったことによるもの。

Point 16 販売費及び一般管理費:前年同期より261百万円(15.1%)の減少。主に荷造・運搬費、人件費、旅費交通費などの減少が要因。

Point 17 営業利益:前年同期に比べ736百万円(73.8%)の減益。

Point 18 為替差損:円高によるもの。

Point 19 経常利益:前年同期より772百万円(74.7%)の減益。

Point 20 保険解約返戻金:保険満期による返戻金。

Point 21 為替換算調整勘定取崩益:メックUSA清算による為替換算調整勘定の取崩益。

Point 22 減損損失:前年同期はメック蘇州旧工場の機械装置などの減損によるもの。

Point 23 四半期純利益:前年同期と比べ550百万円(70.6%)の減益。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期連結累計期間 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
24 営業活動によるキャッシュ・フロー	521,513	881,457
税金等調整前四半期純利益	285,995	1,119,686
減価償却費	161,001	179,696
減損損失	—	12,106
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△22,982	22,082
賞与引当金の増減額(△は減少)	55,148	39,938
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	8,032	9,450
退職給付引当金の増減額(△は減少)	13,675	—
受取利息及び受取配当金	△26,996	△28,879
保険解約返戻金	△9,479	△100,909
支払利息	3,171	3,344
投資有価証券評価損益(△は益)	574	—
為替換算調整勘定取崩額(△は益)	△16,845	—
売上債権の増減額(△は増加)	△270,695	198,816
たな卸資産の増減額(△は増加)	62,917	△155,031
仕入債務の増減額(△は減少)	157,467	17,781
その他	92,867	△143,294
小計	493,853	1,174,789
利息及び配当金の受取額	27,140	29,083
利息の支払額	△2,752	△3,194
法人税等の還付額	150,345	—
法人税等の支払額	△147,073	△319,220

Point 24 営業活動によるキャッシュ・フロー:

営業活動の結果得られた資金は5億21百万円(前年同期比3億59百万円減)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益が2億85百万円、減価償却費が1億61百万円あったこと、および仕入債務が1億57百万円増加したこと等により資金増加に貢献したものの、資金の減少要因として売上債権が2億70百万円増加したこと等により資金の増加が一部相殺されたことによるものであります。

(単位:千円)

	当第2四半期連結累計期間 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前第2四半期連結累計期間 2008年4月1日から 2008年9月30日まで
25 投資活動によるキャッシュ・フロー	88,913	△526,972
定期預金の預入による支出	△779,833	△1,012,361
定期預金の払戻による収入	1,102,698	726,887
有形固定資産の取得による支出	△297,926	△427,401
有形固定資産の売却による収入	1,528	2,520
無形固定資産の取得による支出	—	△1,440
投資有価証券の取得による支出	△8,595	△10,160
投資有価証券の売却による収入	30,921	1,127
保険積立金の解約による収入	37,357	214,394
長期前払費用の取得による支出	—	△21,503
その他	2,763	965
26 財務活動によるキャッシュ・フロー	△160,520	△202,714
短期借入れによる収入	130,000	130,000
短期借入金の返済による支出	△130,000	△130,000
自己株式の取得による支出	△20	—
配当金の支払額	△160,500	△202,714
現金及び現金同等物に係る換算差額	32,518	7,061
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	482,424	158,832
現金及び現金同等物の期首残高	2,209,945	2,792,447
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,692,370	2,951,279

Point 25 投資活動によるキャッシュ・フロー:

投資活動の結果得られた資金は88百万円(前年同期は5億26百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が2億97百万円あったものの、資金の増加要因として定期預金の払出が純額で3億22百万円あったこと等によるものであります。

Point 26 財務活動によるキャッシュ・フロー:

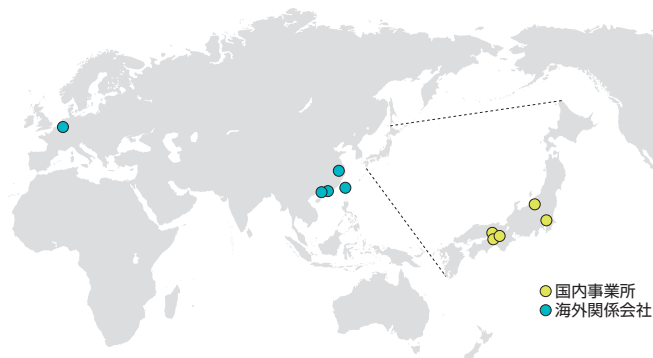
財務活動の結果使用した資金は1億60百万円(前年同期比42百万円減)となりました。これは主に配当金の支払が1億60百万円あったこと等によるものであります。

会社概要 2009年9月30日現在

商号：メック株式会社
 本社事務所所在地：兵庫県尼崎市昭和通三丁目95番地 アマックスビル
 設立年月日：1969年(昭和44年)5月1日
 資本金：594,142,400円
 事業内容：電子基板製造用薬品、機械装置及び各種資材の製造販売

役員 2009年9月30日現在

代表取締役社長：前田 和夫
 取締役兼専務執行役員：内野 登一
 取締役兼常務執行役員：溝口 芳朗
 取締役：西川 裕史
 執行役員：松下 太郎
 北村 伸二
 中川 登志子
 成田 英敏
 長井 真
 監査役(常勤)：藤山 正人
 監査役：八田 伸
 松山 英明



●国内事業所
 ●海外関係会社

国内事業所 2009年9月30日現在

本社／大阪営業所
 〒660-0881 兵庫県尼崎市昭和通三丁目95番地 アマックスビル
 TEL. 06-6414-3451(代) FAX. 06-6414-3455

東京営業所
 〒190-0003 東京都立川市栄町六丁目1番1号 立飛ビル7号館7階
 TEL. 042-538-1080(代) FAX. 042-538-1090

新潟営業所／長岡工場
 〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221番地36
 TEL. 0258-47-2490(代) FAX. 0258-47-2492(営業所) 0258-47-2493(生産)

西宮工場
 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜二丁目1番19号
 TEL. 0798-46-8588(代) FAX. 0798-46-8688

研究所
 〒660-0832 兵庫県尼崎市東初島町1番地
 TEL. 06-6401-8170(代) FAX. 06-6401-8172

海外拠点 2009年9月30日現在

MEC TAIWAN COMPANY LTD.
 No.3, Ziqiang 6th Rd., Zhongli City, Taoyuan County 320, Taiwan (R.O.C)
 TEL. 886-3-434-3549 FAX. 886-3-434-5047

MEC EUROPE N.V.
 Kaleweg 24-26, B-9030 Gent, Belgium
 TEL. 32-9-216-7272 FAX. 32-9-216-7270

MEC (HONG KONG) LTD.
 No.8, 12/F., Tower 3 China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong
 TEL. 852-2690-2255 FAX. 852-2690-2262

MEC FINE CHEMICAL (ZHUHAI) LTD.
 530 An Ji East Road, Sanzao Town, Jinwan Qu, Zhuhai City, Guang Dong, China
 TEL. 86-756-762-2328 FAX. 86-756-762-2628

MEC CHINA SPECIALTY PRODUCTS (SUZHOU) CO., LTD.
 31 Linjiang Road, Suzhou Industrial Park, Jiangsu 215121, China
 TEL. 86-512-6745-1990 FAX. 86-512-6745-1993

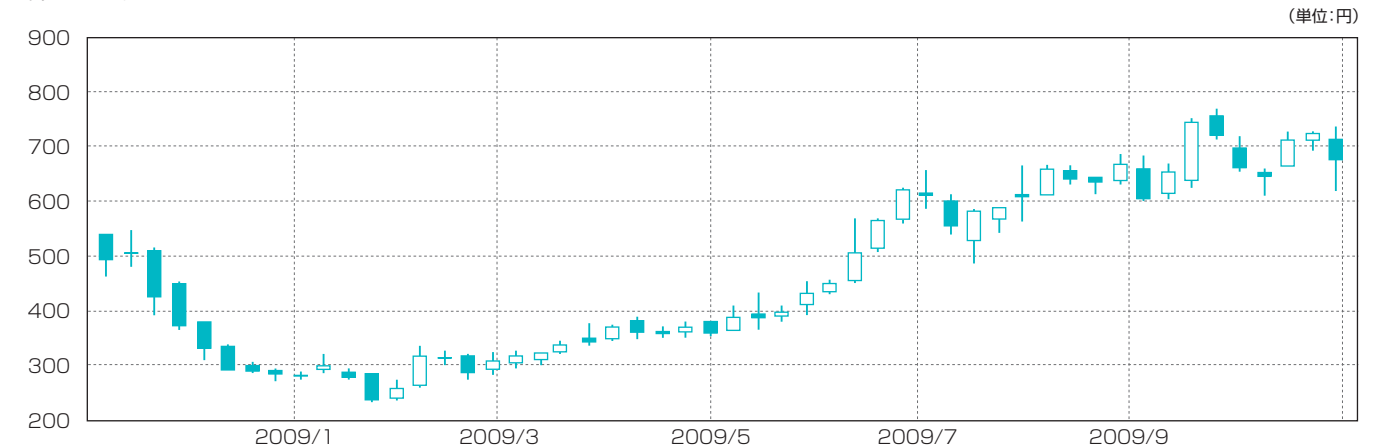
株主状況 2009年9月30日現在

発行済株式総数 20,371,392株
 株主数 3,402名

大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,315	11.36
有限会社ケイ・エム・ビジネス	1,130	5.54
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,034	5.07
前田 耕作	1,005	4.93
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニー・レギュラー・アカウント	917	4.50
川邊 豊	806	3.95
メロンバンク・エヌ・イー・トレーディー・クライアント・オムニバス	786	3.86
小林 義雄	707	3.47
前田 和夫	666	3.27
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	635	3.12

株価の推移



株式分布状況 2009年9月30日現在

